

I 県勢編

総説

1 沿革

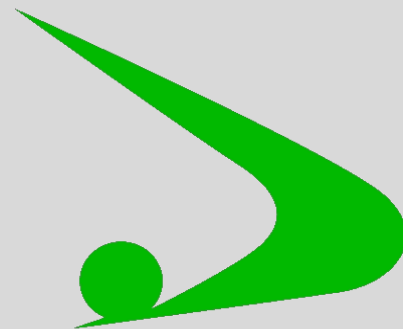
2 変遷

3 位置

4 地勢

5 主要山岳、河川、湖

6 地質



1 沿 革

日本列島にヒトが住み始めたのは旧石器時代です。秋田県では、2万数千年前の石器が見つかっており、この時代の遺跡として大仙市米ヶ森遺跡が知られています。約1万3千年前に始まった縄文時代、人々は竪穴住居に住み、主に木の実や動物、魚・貝類を採る生活でした。前期頃からは数十人を超す大きな集落も作られ、秋田県の北部と南部では土器等の文化に大きな違いが見られるようになり、それはその後、本県の北部と南部の地域性を形づくりました。後期には配石遺構が多く造られ、特別史跡大湯環状列石や国指定史跡伊勢堂岱遺跡は縄文時代の日本を代表する遺跡です。

今から2千数百年前に北九州で始まった弥生文化は秋田県にも達し、秋田市地蔵田遺跡等で多くの土器が出土しています。しかし、前方後円墳に代表される古墳文化はついに秋田県までは達しなかったようです。

中央政府には組み込まれず、独自の文化を維持した東北北部のうち、秋田地方が史書に現れる最初は、斉明天皇4(658)年の阿倍臣比羅夫の水軍北上によってでした。この後、和銅5(712)年の出羽国誕生、天平5(733)年の出羽柵(8世紀中ごろには「秋田城」と称された)高清水岡への移転、天平宝字3(759)年の雄勝城の築城と続き、9世紀初頭には弘田柵も造られました。9~10世紀の元慶(878~879)・天慶(939)の両乱は在地勢力の拮抗で、土豪の中から新たな勢力が台頭してきました。前九年合戦の後、清原氏は出羽・陸奥六郡に覇をとえ、後三年合戦によって奥州藤原氏がそれを受け継ぎました。

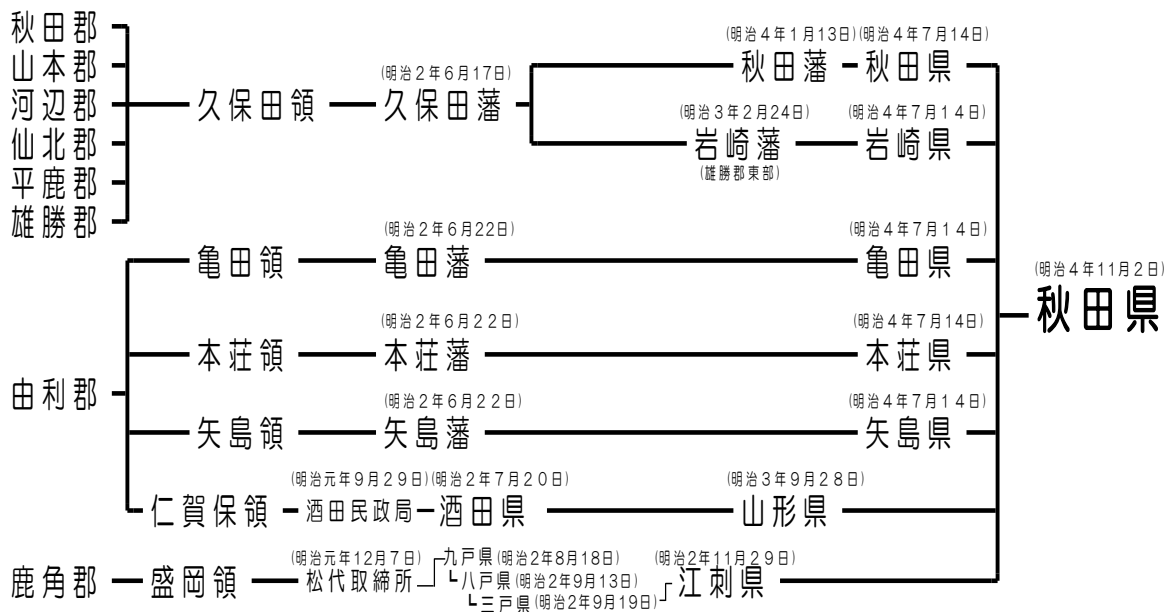
鎌倉時代には、鹿角郡に成田、比内郡に浅利、秋田郡に橋、雄勝郡に小野寺、平鹿郡に平賀、由利郡に由利の各氏が地頭職で入りました。その後津軽安藤(東)氏の勢力が秋田湊や檜山に入り、戦国期には、湊安東・檜山安東・小野寺・戸沢・六郷・浅利などの諸勢力が抗争を繰り広げました。

豊臣政権では秋田(安東)氏・小野寺氏・戸沢氏・本堂氏・六郷氏などが独立した大名として認められました。慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いにより、同7(1602)年、佐竹氏が常陸54万石から秋田・仙北20万石に移封されました。佐竹氏は久保田城(秋田市)を本拠として、藩政期約260年間を通じて領内の新田開拓、林業、院内・阿仁等の鉱山開発や秋田蘭画を代表とする文教振興などに大いに実績をあげ、やがて明治以降の産業経済、文化発展の基盤を確立しました。慶応4(1868)年の戊辰戦争では、新政府側の藩として奥羽諸藩の中で孤立し、広い地域にわたって戦禍を被りましたが、人々の努力によって復興しました。

明治4(1871)年、廃藩置県が行われ、同年11月2日、府県統合により現在の行政区域が定められ、今に続く秋田県が成立しました。以後近代日本の地方自治体として大正時代を経て戦後の社会、経済の混乱期を乗り越え、昭和26(1951)年度の総合開発計画を始めとして、これまで策定した一連の総合計画は、それぞれの時代の課題を取り上げそれに対処してきました。そして、平成22(2010)年3月には、秋田の元気創造に向け、県民一丸となって取組を進めていくための「ふるさと秋田元気創造プラン」を策定し、各種施策・事業を推進しています。

2 変 遷

(1) 秋田県の成立（日付は旧暦）



※参考資料『秋田県の百年』田口勝一郎
「法令全書（明治元年～明治4年）」
「庶務課庶務掛事務簿」（秋田県公文書館蔵）

(2) 市町村の主な変遷

区 分	明	大	昭	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	平	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	22	15	25	28	30	32	36	40	45	47	49	50	55	61	16	17	17	17	17	18	18	18	18
	4	4	10	10	10	4	6	1	4	4	6	9	11	3	11	1	3	6	9	10	3	3	3
	1	1	1	1	1	1	29	1	1	1	1	1	1	1	1	11	22	20	20	1	20	21	27
	注1			注2		注3	注4																
総 数	237	238	225	224	100	73	72	69	69	69	69	69	69	67	65	42	40	38	29	27	26	25	
市	1	1	2	4	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	11	12	13	13	13	13	
町	14	45	50	50	42	39	40	42	45	44	47	48	49	50	49	47	24	22	20	12	10	9	9
村	222	192	173	170	50	26	24	23	19	16	13	12	11	10	9	9	7	6	4	4	4	3	
鹿角郡	町	2	3	5	5	4	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	村	8	7	5	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
北秋田郡	町	2	6	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	2	—	—	—	—	—	
	村	29	26	24	23	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
山本郡	町	2	3	3	3	3	3	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	3	3	
	村	24	23	19	19	5	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
南秋田郡	町	1	6	6	7	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7	3	3	3	3	3	3	3	
	村	35	28	22	21	5	2	2	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
河辺郡	町	—	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—	
	村	14	13	11	12	4	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
由利郡	町	3	6	6	6	5	5	6	6	7	7	8	9	10	10	10	3	3	3	—	—	—	
	村	28	25	24	25	7	5	4	3	3	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
仙北郡	町	1	7	7	8	7	6	6	8	8	9	9	9	10	9	9	3	3	1	1	1	1	
	村	37	33	33	32	11	7	7	7	5	5	4	4	4	3	2	1	1	—	—	—	—	
平鹿郡	町	1	7	7	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	—	—	—	
	村	24	18	17	15	6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	—	—	—	
雄勝郡	町	2	6	7	7	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	
	村	23	19	18	18	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	

注1 市制町村制施行（明22.4.1）
2 町村合併促進法施行（昭28.10.1）
3 新市町村建設促進法施行（昭31.6.30）
4 新市町村建設促進法一部失効（昭36.6.29）
資料：県市町村課

3 位 置

本県は首都東京のほぼ真北約450kmの日本海沿岸にあって、面積11,636.32平方km、13市9町3村に区画され、周囲は奥羽山脈を隔てて東は岩手県に、南は山形、宮城の両県と隣接し、北は本州最北端の青森県と境して景勝地国立公園十和田湖を分け、西は日本海に面している。



4 地 勢

本県は、経緯度計算によれば南北181km、東西111km、東経140度、北緯38、39、40度にまたがり、面積は11,636.32平方km（全国6位）である。

地勢は、東の県境の奥羽山脈に沿って那須火山帯が縦走して、八幡平、駒ヶ岳、栗駒山の諸火山と田沢、十和田の両カルデラ湖を形成し、西に平行する出羽丘陵に沿って鳥海火山帯が走り、その南端部にそびえる鳥海山は東北第二の高さを誇っている。

県北には、鷹巣、大館、花輪の諸盆地、県南には横手盆地などがあり、一方、雄物川、米代川、子吉川などの河川に沿って肥沃な耕地を展開して、その下流に秋田、能代、本荘の各平野があり、多くの都市が発展している。

5 主要山岳、河川、湖

(1) 山 岳

(単位：m)

山 岳 名	標 高	主 な 所 在 地
鳥 海 山	2,236	にかほ市、山形県
駒ヶ岳(男女岳)	1,637	仙北市、岩手県
栗 駒 山	1,626	東成瀬村、宮城県、岩手県
八 幡 平	1,613	鹿角市、岩手県
畚 岳	1,578	仙北市、岩手県
諸 桧 岳	1,516	仙北市、岩手県
乳 頭 山	1,478	仙北市、岩手県
森 吉 山	1,454	北秋田市
嶮 岨 森	1,448	仙北市、岩手県
和 賀 岳	1,439	仙北市、岩手県
虎 毛 山	1,433	湯沢市
秣 岳	1,424	湯沢市
三 界 山	1,381	東成瀬村、岩手県
朝 日 岳	1,376	仙北市
焼 山	1,366	鹿角市、仙北市
神 室 山	1,365	湯沢市、山形県
高 松 岳	1,348	湯沢市
薬 師 岳	1,218	大仙市、岩手県
田 代 岳	1,178	大館市
白 岩 岳	1,177	仙北市
太 平 山	1,170	秋田市、上小阿仁村

注 標高1,000m以上の主要山岳

資料：国土交通省国土地理院

(2) 河 川

(単位：m)

河 川 名	区 間		流路延長	
	上 流 端	下流端		
幹 川	雄物川	湯沢市 南沢の合流点	日本海	129,800
雄物川 右支川	玉 川	仙北市 八類沢の合流点	雄物川 合流点	103,117
雄物川 右支川	皆瀬川	湯沢市皆瀬字小安奥山国有林35 林班子小班地先	雄物川 合流点	44,164
幹 川	米代川	岩手県八幡平市 根石川の合流点	日本海	110,181
米代川 左支川	阿仁川	北秋田市 岩井の沢の合流点	米代川 合流点	62,400
米代川 左小支	小阿仁川	北秋田郡上小阿仁村 萩形沢の合流点	阿仁川 合流点	48,545
幹 川	子吉川	由利本荘市 上玉田川の合流点	日本海	60,800
子吉川 右支川	石沢川	左岸 雄勝郡羽後町上仙道字上桧山30番地先 右岸 雄勝郡羽後町上仙道字上桧山21番地先	子吉川 合流点	69,600

資料：県河川砂防課

(3) 湖

湖名	面積 (平方km)	最大深度 (m)	所在市町村
十和田湖	61.02 (うち秋田県 24.41)	326.8	小坂町
八郎潟調整池	27.73	11.3	男鹿市、潟上市、五城目町、 八郎潟町、井川町、大潟村
田沢湖	25.78	423.4	仙北市

注 十和田湖：平成20年12月25日境界確定

資料：国土交通省国土地理院

6 地質

本県の地質は、青森及び岩手の県境付近に分布する古生代の粘板岩類と太平山を中心とする中生代白亜紀の花崗岩類を基盤として、新第三紀層及び第四紀層などの地層が広く分布している。

新第三紀層は、大別すると下部の火山岩類を主とする岩相と上部の堆積岩類を主とする岩相に分けられる。火山岩類は脊梁山地を中心とする県内陸部に広く分布し、海底火山噴出物である変質安山岩、石英安山岩、玄武岩などからなり、緑色凝灰岩（グリーンタフ）によって特徴づけられる。これらの火山岩類に伴って銅を始めとする有用金属を豊富に含んだ鉱床が形成され、北鹿地域の黒鉱鉱床はその代表例である。堆積岩類は、出羽丘陵以西の日本海側沿いに厚く発達しており、泥岩、砂岩、礫岩などで構成されている。海岸沿いには褶曲運動による背斜構造が幾系列も発達しており、その中に石油や天然ガスを胚胎している。

第四紀層としては、平野部では盆地、扇状地、段丘、砂丘などを構成する砂礫が卓越し、山地では那須－鳥海火山帯の活動により形造られた多数の火山が随所に地熱地帯を形成しており、本県のエネルギー源として重要である。